

多高通信

第191号 令和3年9月28日発行



さどく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

第32回 多高祭!

■多高祭実行委員長

3年6組 峰村 空(中野中出身)

今年の多高祭は昨年を引き続きコロナ禍の中で開催されることになりました。緊急事態宣言も発令され、緊張感が高まる中での実施でしたが、天気にも恵まれ、2日間の日程を無事に終えることができました。

今年度は32団体の校内展示に加え、軽音楽部、吹奏楽部、合唱部、有志団体がステージや中庭で発表を行うなど、コロナ禍で様々な制限がある中でも多くの皆さんが積極的に多高祭を盛り上げてくれました。それぞれが議論し、内容を深めながら準備をした成果を遺憾なく発揮したと思います。そうして当日を迎え、校内展示にもステージ発表にも三密を避けながら多くのお客さんが訪れ、いずれも大きな盛り上がりを見せていたことから、とても有意義な多高祭になったと確信しています。

文化部の生徒の中には、この多高祭で引退を迎える人も多くいます。この多高祭に向けて準備の中で感じたもの、学んだものは皆さん自身の財産になっているはずだと思います。この経験を糧にして、これからの人生を歩んでいってほしいと思います。最後になりましたが、夏休み



前からそれぞれの部署で準備をしてくれた実行委員の皆さん、大変お疲れさまでした。今年のような厳しい状況のもとでは、皆さんの献身的な仕事が無ければ多高祭を成功裏に終えることはできなかったでしょう。本当にありがとうございました。そして、来年こそそのびのびと多高祭が実施できることを、心から願っています。

岩手大学理工学部

アカデミックインターンシップ

8月4日、岩手大学理工学部のアカデミックインターンシップが岩手大学で行われました。アカデミックインターンシップとは、実際に大学の研究室における研究活動を体験し、大学における主体的学習の一端を体験すると共に、理工系の大学における専門分野がどのようなものであるかを理解する活動です。

本校では平成27年度から参加しており、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い開催が中止となりましたが、今年度は健康管理と感染予防に十分努めながら、二年生と三年生の計11名が参加しました。

今年度は、事前に開講式と事前学習用の動画をYouTubeで視聴してから参加するなど、新型コロナウイルスの影響と思われる変更点がいくつかありましたが、参加当日は物理系、生命系、数学系、環境基盤・環境系の4つに分かれて、それぞれの研究室・実習室などに移動し、研究活動を終日体験することができました。

■生徒の感想

◎今回の参加は、私にとって有意義なものでした。実際の講義を通して大学の雰囲気を知ることができ、自分の進みたい分野についても知ることができ、進路選択の参考になりました。是非、後輩たちにもこのような貴重な体験をして欲しいと感じました。

◎実際に研究活動に参加してみて、改めて高校で数学と物理を学ぶ重要性を痛感しました。高校での基礎的な数学や物理の学力は一過性のものでなく、その延長線上に大学での専門的かつ発展的な学びがあり、抽象的な概念を



成す根幹であると感じました。今後は大学入試に合格するための学びではなく、将来の地球環境を変えるための技術開発をめざす自分自身の将来のために学んでいきたいと思いました。

新人戦・秋季大会を前に...

県総体が終了し、多くの運動部では新体制での活動を開始しました。今回はそんな部活動の様子をお届けします。

陸上部

くりこま高原高校陸上競技選手権

7月17日・18日にくりこま高原高校陸上競技選手権が栗原市築館総合運動公園陸上競技場で開催されました。



両日とも猛暑となりましたが、コロナ禍の中ということもあり、運動中以外はマスク着用の徹底を呼び掛けられる中、熱中症とならないように気を付けながら競技に臨みました。

男子 200M 齋藤 優太 23秒25 決勝進出

400M 齋藤 優太 51秒50 第3位

110MH 若生 吉輝 17秒72 第7位

4x400MR 迎・齋藤・若生・佐藤 3分39秒25 第8位

野球部

秋季宮城県高等学校野球 東部地区大会

本戦1回戦 対登米総合産業高 5-6x ●
敗者復活戦 対気仙沼高 5-6 ●

■主将 2年5組 佐藤 知也(高崎中出身)

私たち野球部は現在、2年生5人、1年生19人の計24人で活動しています。1年生が多いチームですが、2年生が上手に1年生をリードしながら、真剣に日々の練習に励んでいます。

秋季地区大会では本戦と敗者復活戦の2試合行いましたが、1勝もすることができませんでした。秋季県大会に出場し、その県大会でも勝ち上がりたいという目標を立てて新チームが始動しましたが、その目標を達成することはできませんでした。敗因は、守備でビククインングを作らない、攻撃の時にチャンスで点を取りきるというチームの課題を克服できなかったことだと思います。

今回の大会で、今までの野球に対する意識や態度では勝つことができないと部員一人一人が意識していると思うので、今後同じような内容で負けることがないように、練習に取り組んでいきます。

女子バスケットボール部

宮城県高等学校

バスケットボール選手権大会(一次大会)

8月17日・18日、セキスイハイム・スーパーアリーナで選手権大会の一次大会を戦ってきました。2年生7名、1年生2名、マネージャー2名に加え、県総体で引退した3年生3名も復帰し、全員バスケットで勝利を目指しました。

初戦の泉陵高校に52対23、2回戦の白石高校に51対47で勝利し、本戦進出まであと一勝まで勝ち上がりましたが、グループ決勝では佐沼高校に38対81で残念ながら敗戦しました。

私たちのチームのスローガンは「究根性」です。目標に向けて、努力と根性を正しく鍛えようというチームの考え方を示しています。体力や技術力だけでなく、頭を使う練習も多く、刻一刻と変わる状況を判断し、全員がチームのために最後まで走りきり、自分の役割を果たそうとする意識が高まってきました。チームとしての団結も固く、厳しい練習にも全員で声を出して良い雰囲気でも乗り越えてきました。大会では、チームで重点的に意識してきたディフェンスやリバウンドといったプレーを徹底することができ、新体制になって公式戦初勝利を収めることができました。さらに、オフenseの合わせが成功するなど自分たちの成長を実感する場面もあり、自分たちの成長を実感することができました。

これからは、本当の意味で1・2年生だけの新体制になります。今回の大会で勝利も悔しい敗戦も経験しました。自分たちの良さをさらに伸ばし、できないことや苦手なことを埋めていくことで、次のステージに挑戦していきたいと思っています。

